

2 かぎの使い方・文末表現

プリント3

国語のワーク5・6年生

次の各文には、会話文の「」（かぎ）がありません。会話文の「」（かぎ）を付け加え、書き直しましょう。

① 川に飛び込もうとした足を、誰かに引っぱられた徳兵衛は、そのまま橋の真ん中にしりもちをつき、止めないでください。死ななきゃならないわけがあるんです。と大きな声を出しながらまた川に飛び込もうとします。男は徳兵衛の着物を引っぱって、そりゃわけがあるんだろがよ。ちょっとお待ち、お待ちってんだよ。と
 言って、徳兵衛を地べたに座らせます。

と		っ	と	と		っ	も	ら	
言	待	そ	し	大	わ	止	ち	れ	川
っ	ち	り	しま	き	け	め	を	た	に
て	、	や	す	な	が	な	つ	徳	飛
、	お	わ	。	声	あ	い	き	兵	び
徳	待	け	男	を	る	で	、	衛	込
兵	ち	が	は	出	ん	く		は	も
衛	っ	あ	徳	し	で	だ		、	う
を	て	る	兵	な	す	さ		そ	と
地	ん	ん	衛	が	」	い		の	し
べ	だ	だ	の	ら		。		ま	た
た	よ	ろ	着	ま		死		ま	足
に	」	が	物	た		な		橋	を
座		よ	を	川		な		の	、
ら		。	引	に		き		真	誰
せ		ち	っ	飛		や		ん	か
ま		よ	ぱ	び		な		中	に
す		っ	っ	込		ら		に	引
。		と	て	も		な		し	っ
		お	、	う		い		り	ぱ

2 かぎの使い方・文末表現

プリント4

国語のワーク5・6年生

② 男は大きいため息をつきながら徳兵衛とくべえに言っこまてきかせます。若い人はなんでもそ

うだ。すぐに自分が死ねばこまことがすむと思っこまんだよ。でもね、冗談じょうだん言っちゃいけま

せん。後に残された者は困こまるんだ。もっとよくお考えなさい。また、道は開け……

んんん……おやあと言こまいながら男が、徳兵衛とくべえの顔をじつと見ます。お、おまえ。徳とく

兵衛べえじゃねえか。驚おどろく男の顔を見て、徳兵衛とくべえも声をあげます。えっ、お、おじさん。

っ		っ	ま	と					っ	っ	
え	驚	お	す	言	道	困	談	ね	若	て	男
っ	く	、	。	い	は	る	言	ば	い	き	は
、	男	お		な	開	ん	っ	こ	人	か	大
お	の	ま		が	け	だ	ち	と	は	せ	き
、	顔	え		ら	：	。	や	が	な	ま	く
お	を	。		男	：	も	い	す	ん	す	た
じ	見	徳		が	ん	っ	け	む	で	。	め
さ	て	兵		、	ん	と	ま	と	も		息
ん	、	衛		徳	ん	よ	せ	思	そ		を
、	徳	じ		兵	：	く	ん	う	う		つ
	兵	や		衛	：	お	。	ん	だ		き
	衛	ね		の	お	考	後	だ	。		な
	も	え		顔	や	え	に	よ	。		が
	声	か		を	あ	な	残	。			ら
	を	、		じ	、	さ	さ	で			徳
	あ			っ		い	れ	も			兵
	げ			と		。	た	ね			衛
	ま			見		ま	者	、			に
	す			ま		た	が	冗			言

2 かぎの使い方・文末表現

プリント5

国語のワーク5・6年生

③ おじさんと呼ばれた男は、おめえか……と言った後に小さく舌打ちしたをして、おめえなら止めるんじゃないよ。飛び込んだじゃえ。とそっぽを向いてしまいました。徳兵衛とくべえは、あわてておじさんに手をつきます。助けてください。なんだよ。お前、今、死ななきゃならねえわけがあるとそう言ってたよな。わけがあるんだったらおじさん止めねえよ。ここで見てやるから。はやく飛び込みな。大川の方を指さしながらぶっきらぼうに言いました。

い					「	「	あ	と		「	と	「	
ま	大	て	る	わ	な	助	わ	そ	込	お	言	お	お
し	川	て	ん	け	ん	け	て	っ	ん	め	っ	め	じ
た	の	や	だ	が	だ	て	て	ぽ	じ	え	た	え	さん
。	方	る	っ	あ	よ	く	お	を	や	な	後	か	ん
	を	か	た	る	、	だ	じ	向	え	ら	に	：	と
	指	ら	ら	と	お	さ	さ	い	」	止	小	：	呼
	さ	。	お	そ	前	い	さん	て		め	さ	」	ば
	し	は	じ	う	、	」	に	し		る	く		れ
	な	や	さん	言	今		手	ま		ん	舌		た
	が	く	ん	っ	、		を	い		じ	打		男
	ら	飛	止	て	死		つ	ま		や	ち		は
	ぶ	び	め	た	な		き	し		な	を		、
	っ	込	ね	よ	な		ま	た		か	し		
	き	み	え	な	き		す	。		っ	て		
	ら	な	よ。	。	や					た	、		
	ぼ	」	こ	わ	な					よ			
	う		こ	け	ら					。			
	に		で	が	ね					飛			
	言		見	あ	え					び			

2 かぎの使い方・文末表現

プリント6

国語のワーク5・6年生

次の各文は、それぞれ常体じょうたいと敬体けいたいで書かれています。

メロスは激怒げきどした。必ず、かの邪智暴虐じゃちぼうぎやくの王のぞを除かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人ぼくじんである。笛を吹き、羊と遊んで暮して来た。けれども邪悪じゃあくに対しては、人一倍びんかんに敏感であった。

常体じょうたい 「だ・である調」とも言います。

常体じょうたいの文章は読み手に強い印象を与えます。

メロスは激怒げきどしました。必ず、かの邪智暴虐じゃちぼうぎやくの王のぞを除かなければならぬと決意しました。メロスには政治がわかりません。メロスは、村の牧人まきとです。笛を吹き、羊と遊んで暮して来ました。けれども邪悪じゃあくに対しては、人一倍びんかんに敏感でありました。

敬体けいたい 「です・ます調」とも言います。

敬体けいたいの文章は読み手にやわらかい印象を与えます。

同じ文章の中で、常体じょうたいと敬体けいたいをまぜて使うことはおすすめしません。

2 かぎの使い方・文末表現

プリント7

国語のワーク5・6年生

次の各文について、常体で書かれている文は敬体に、敬体で書かれている文は常体に書きかえましょう。

① 親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。

親譲りの無鉄砲で子供の時から損ばかりしています。

② ゴーシュは町の活動写真館でセロを弾く係りでした。けれどもあんまり上手でないという評判でした。

ゴーシュは町の活動写真館でセロを弾く係りだった。けれどもあんまり上手ではないという評判だった。

③ ある日の事でございます。御釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りてぶらぶら御歩きになっていらっしやいました。

ある日の事だ。お釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りてぶらぶら御歩きになっていた。

④ 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。

国境の長いトンネルを抜けると雪国で（ありま）した。夜の底が白くなりました。信号所に汽車が止まりました。

2 かぎの使い方・文末表現

プリント7

国語のワーク5・6年生

⑤ 山椒魚さんしょうおは悲しみしんだ。彼かれは彼の棲家すみかである岩屋いわやから外へ出てみようとしたので、頭あたまが出口でしゅつにつかえて外へ出ることができなかつたのである。

山椒魚は悲しみました。彼は彼の棲家である岩屋から外へ出てみようとしたので(あります)したが、頭が出口につかえて外へ出ることができなかつたので(あります)す。

⑥ 木曾路きそじはすべて山の中である。あるところは岨そづたいに行く崖がけの道であり、あるところは数十間すうじゅうけんの深さに臨のぞむ木曾川きそがわの岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。

木曾路はすべて山の中で(あります)す。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口で(あります)す。

ここにある①から⑥の文は、すべて有名な文学作品の書き出しです。次の作品に合うと思う番号を「」に書きましょう。

- | | | | |
|--|-------|---|-------|
| 『蜘蛛 <small>くも</small> の糸 <small>いと</small> 』芥川龍之介 <small>あきたがわりゅうのすけ</small> | 「 ③ 」 | 『坊ちゃん <small>ぼっ</small> 』夏目漱石 <small>なつめそうせき</small> | 「 ① 」 |
| 『夜明け前 <small>よみげまへ</small> 』島崎藤村 <small>しまざきとうそん</small> | 「 ⑥ 」 | 『雪国 <small>ゆきくに</small> 』川端康成 <small>かわはたやすなり</small> | 「 ④ 」 |
| 『セロ弾 <small>せろだん</small> きのゴーシュ』宮沢賢治 <small>みやざわけんじ</small> | 「 ② 」 | | |
| 『山椒魚 <small>さんしょうお</small> 』井伏鱒二 <small>いぶせますじ</small> | 「 ⑤ 」 | | |